

# 津ライスニュース

## 令和5年産水稻 作柄報告(速報版)

令和5年12月11日

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

令和5年産水稻の作柄  
作況指数は三重県101、中勢101の「平年並み」

### 生育経過

#### <早期栽培の概要>

育苗期間中は気温が高い日が続いたため、一部で草丈が高くなり、ムレ、ヤケ等が見られましたが、全般に育苗は良好でした。

田植え作業の中心は、4月第4半旬～5月第1半旬となりましたが、一部で代掻き作業の遅れによる田植え作業の遅れが見られました。

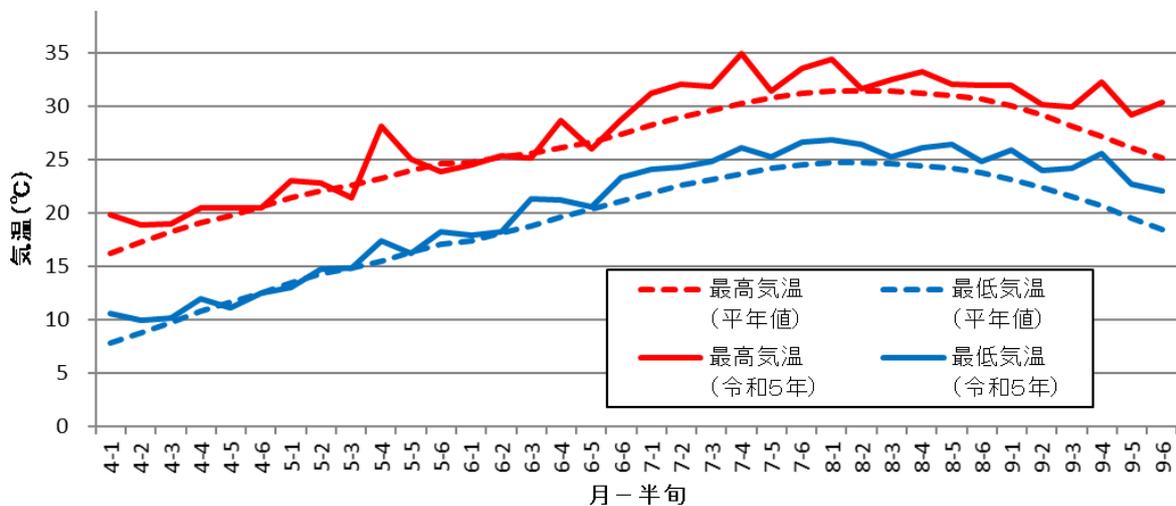
5月第5半旬から6月第3半旬にかけて気温が低下し、また曇りや雨の日が多く、日照が少なくなったため、初期の生育が遅れ、分けつが少ない状況となりました。6月第4半旬頃から気温が高くなり、生育が進展し、分けつが増加しましたが、生育期間を通じて茎数は少なめとなりました。出穂期は4月末植えて7月20日頃となり、平年並み～2日程度早い状況となりました。登熟期となる7月下旬から8月にかけて降雨が少なく、気温がかなり高く推移したことで、登熟がやや悪く、高温障害が多く見られました。

なお、普通期となる5月中旬以降の移植では、出穂が8月上旬となりましたが、8月は気温がかなり高温で推移し、降雨が少なかったため、一部地域で不稔や登熟不良が見られ、品質、収量が低くなりました。

### 気象経過

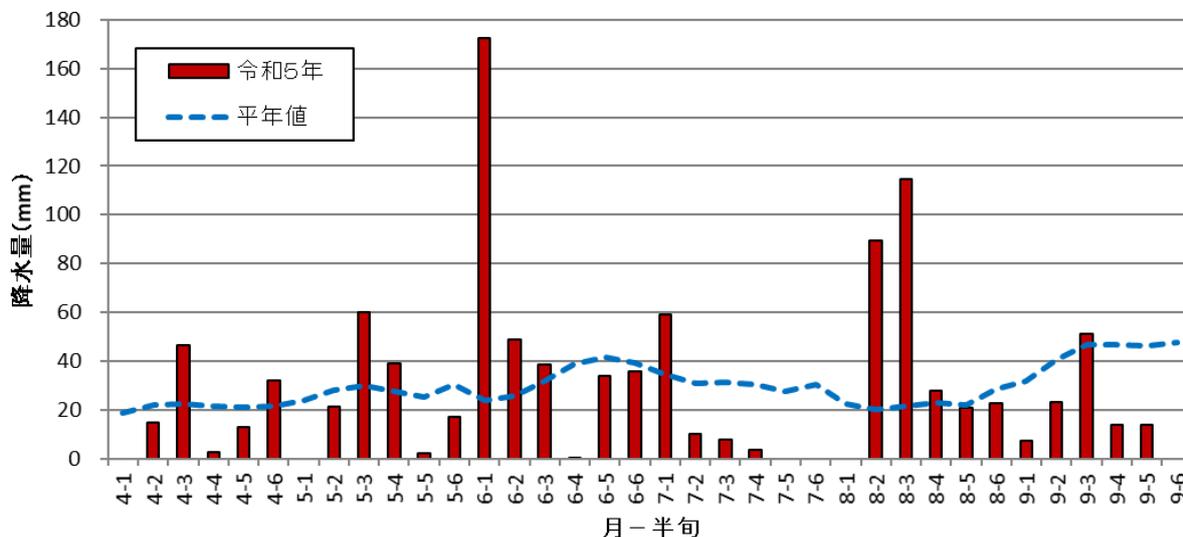
#### <気温>

4月から5月第4半旬にかけて気温が高く推移したものの、5月第5半旬から6月第3半旬にかけて気温は低下し、平年並みで推移しました。6月第5半旬以降は気温が高く推移しました。



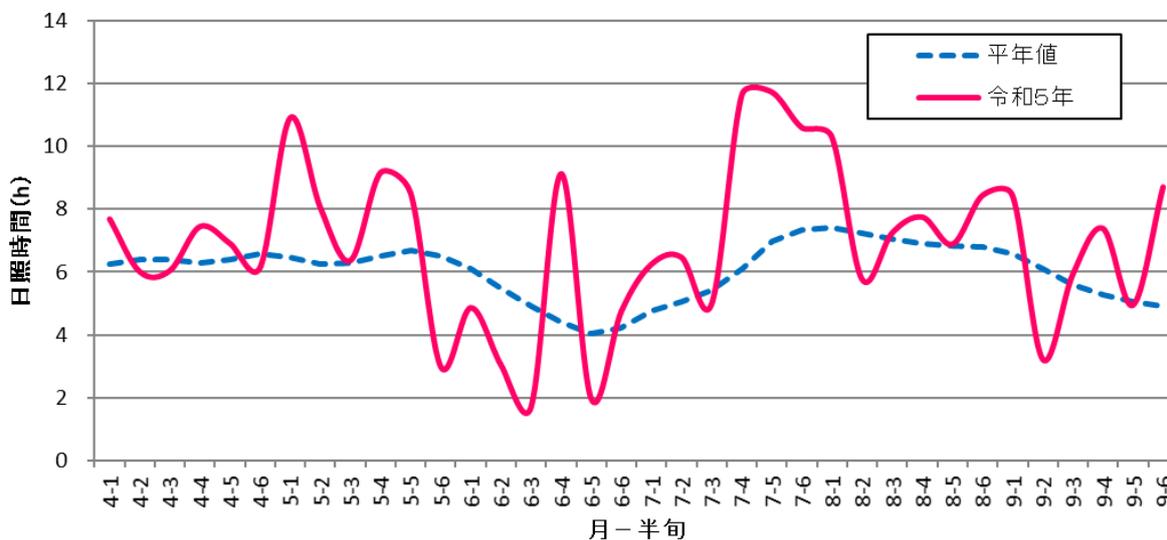
### <降水量>

4月は降雨が少なくなりました。6月上旬に降雨はありましたが、6月中旬から7月にかけて降雨がかなり少なくなりました。その後、8月上旬は周期的な降雨や台風による降雨がありましたが、8月中旬以降は降雨が少なくなりました。



### <日照時間>

5月第5半旬から6月第5半旬にかけて曇りや雨の日が多く、日照はきわめて少なくなりました。6月第6半旬以降は日照が多くなりました。



## 病害虫の発生状況

### <発生概况>

6月上旬から中旬にかけて雨や曇りの日が多くなったことから、中山間地域等で葉いもちの発生が確認されましたが、6月中旬から下旬にかけて天候も安定し、大きな被害は見られませんでした。ただし、箱施用剤や防除を行っていないところでは発生が目立つほ場が見られました。7月上旬に、再び降雨が多くなり、葉いもちの発生が見られましたが、気温が高く推移し、7月中旬以降は降雨が少なかったため、穂いもちへの移行は少なく、収量に大きな影響はありませんでした。その他の病害については、大きな被害が出るような発生はありませんでした。

カメムシ類については、イネカメムシの発生が早くから目立ち、7月頃から増加しました。また、ミナミアオカメムシについては、7月から発生が見られましたが、8月以降に発生が急激に増加しました。適期に防除ができなかったほ場では、被害が大きくなりました。

飛来性害虫であるトビイロウンカが確認されるなど、被害が心配されましたが、大きな影響はありませんでした。

## 生育基準田等の調査結果

### <成熟期調査結果>

本年の生育基準田の調査結果を過去のデータと比較すると、稈長はやや長く、m<sup>2</sup>当たり穂数はやや少なくなっています。

また、農業研究所(嬉野)の作況試験田データを平年値(過去10か年の平均)と比較すると、稈長はやや短く、穂数は少なくなりました。

### ○R5水稲生育基準田の調査結果

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m <sup>2</sup> )	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月10日	84.3	21.2	315.4	19.7	7月16日
	安濃	4月28日	91.3	19.7	358.3	21.7	7月20日
	白山	5月2日	86.8	18.5	298.2	17.3	7月21日

### ○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m <sup>2</sup> )	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月15日	84.5	18.8	375.2	24.6	7月13日
	安濃	4月26日	89.3	18.4	308.5	19.1	7月20日
	白山	4月30日	91.2	19.0	300.9	18.4	7月24日

※H30～R4の平均値

※安濃のデータはR1～R4の平均値

### ○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

品種	年度	移植日 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期
コシヒカリ	R5	4月25日	85.0	19.3	358.2	7月12日
	平年値(H25～R4)	4月25日	86.5	18.9	414.8	7月14日

### <収量調査結果>

生育基準田の収量調査結果は過去の平均を概ね下回りました。

本年産については、①5月から6月の日照不足により初期分げつが少なくなったため、穂数が少なくなったこと、②登熟期前半の7月下旬から8月上旬が高温で推移したため、登熟がやや悪かったことが要因と考えられます。

#### OR5生育基準田の収量調査結果

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	490.9	493.5	60.2	21.7
	安濃	554.5	406.9	19.3	21.5
	白山	633.3	467.6	17.7	22.5

#### ○生育基準田の収量調査結果(過去の調査データの平均)

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	548.0	479.4	14.3	21.3
	安濃	608.4	461.0	14.4	21.8
	白山	648.3	487.8	15.9	22.1

※H30～R4の平均値

※安濃のデータはR1～R4の平均値

### <次年度に向けて>

#### ○土づくり

気候変動により、猛暑や日照不足など異常気象の年が多くなっています。このような条件下で水稻を安定的に生産するためには、根を丈夫に張らせ、土壌に必要な養分がバランスよく含まれていることが必要です。稲わらのすき込みや有機物の施用を行うとともに土壌診断を活用し、ケイ酸などの不足する養分を補うなどして、土づくりに取り組みましょう。

#### ○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生が多かったほ場では、土壌が乾燥して硬い時期に、低速で土壌を細かく砕くように耕起を行い、貝を物理的に破碎するとともに冬の寒さにさらして殺菌しましょう。

#### ○病虫害防除

いもち病については、収量に大きく影響する病害であり、まずは葉いもちの発生を抑えて穂いもちへの移行を防ぐことが肝要です。箱施用剤の使用など、予防を中心とした適期防除を心がけましょう。

本年産では、カメムシ類の被害が多くなりました。近年は暖冬傾向が続いているため、カメムシ類が越冬しやすい環境にあり、今後も多発が懸念されます。不稔籾の発生や斑点米により収量、品質の低下要因となります。ほ場周囲の荒廃地対策や草刈り、穂揃い期以降の地域一斉防除などを組み合わせて、カメムシ類の被害を防ぎましょう。

### ○適切な水管理

田面が均平でないと、移植後の水管理や除草剤の効果が不安定となります。このため、耕起や代掻き時に均平を確保するようにしましょう。

活着後は、できるだけ浅水管理(2～3cm)にして日中の水温確保に努め、分げつの発生を促しましょう。本年度のように5月から6月に天候がすぐれない場合は特に初期の水管理に注意が必要です。

水を溜めっぱなしにすると、土中の酸素が不足することによって、根が弱り、下葉の黄化や枯れ上がりが進みます。中干しまでに間がある場合は、一旦軽く干して再度入水しましょう。

中干しは、生育状況に応じて開始時期を調整しましょう。1株20本程度の茎数が目安です。土壌表面に小さい亀裂が入れば中干し終了です。中干し後は、こまめな間断かん水を行い、土壌に適度な水分と酸素を供給し、根の健全化に努めましょう。

落水時期は収穫作業に支障が出ない程度(収穫7日前以降)に遅らせ、後半まで適度な土壌水分を保持して収量・品質の低下を防止しましょう。